

令和 6 年 2 月 27 日

文教厚生常任委員会

委員長 綾城 美佳 様

文教厚生常任委員 岩藤 睦子

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 6 年 2 月 5 日（月）

愛知県 蟹江町

「文化財保存活用地域計画について」

令和 6 年 2 月 6 日（火）

愛知県 小牧市

「窓口サービスについて」

2. 視察参加名簿

委員長 綾城 美佳

副委員長 米弥 又由

委員 林 哲也

委員 岩藤 睦子

委員 中平 裕二

委員 上田 啓二

委員 江原 健二

委員 ひさなが 信也

以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	愛知県 蟹江町			
視察日時	令和 6 年 2 月 5 日（月） 14：00～15：30			
視察項目	文化財保存活用地域計画について			
対応部署名	蟹江町教育委員会生涯学習課			
自治体概要	人口 (令和5年12月1日)	37,132 人	面 積	11.09 km ²
	東は名古屋市、北西は津島市、あま市、西は愛西市、南西は弥富市、南は飛島村に隣接している。町内には蟹江川・日光川・福田川・善太川・佐屋川などの河川が、概ね北から南へと流れ、町域の 1/5 がこれら 5 本の河川によって占められている。河川に恵まれた環境から「水郷の町」として知られる。かつてこの地を訪れた小説家の吉川英治は蟹江を「東海の潮来」と称した。また、名古屋市都心から約 15 km に位置し、古くから名古屋市との強いつながりを持って発展してきた。特に現在では、近鉄名古屋線、JR 東海関西本線といった鉄道路線が整備され、東名阪自動車道、国道 1 号、西尾張中央道などの幹線道路も整備されたため、それら鉄道・道路網を利用することによって、隣接する名古屋市へ短時間での移動が可能であるという交通の便に恵まれた大都市近郊の町という立地条件を有し、名古屋市のベッドタウンとして機能してきた。			
視察内容				
視察では、教育委員会生涯学習課の課長、課長補佐兼生涯学習係長兼文化財保護係長兼主任学芸員から「蟹江町文化財保存活用地域計画」についての説明を受けた後、質疑応答を行った。町議会の水野智見議長同席。				
所 感				
  須成祭 (すなりまつり)				
長門市は令和 4 年 9 月 1 日にヒストリアながとがリニューアルオープンした。長門市の歴史文化を継承するし、市民の関心を高めるためにもきっかけづくりは出来て来ていると思う。説明をされた課長補佐兼生涯学習係長兼文化財保護係長兼主任学芸員は勤続 30 年と伺った。思いを持った特化した職員育成も課題となると思う。今回の視察で策定費用が 2,700 万円で、プロポーザル方式で行い 65%は国の補助金で行ったということがわかった。これまで、文化財保存活用計画について一般質問をさせてもらったが、「限られた人員・予算の中、文化財修理に係る文化庁の補助金の要件となっている、国指定文化財個別の文化財保存活用計画から優先的に作成していく予定」と答弁している。令和 6 年度から文化財関係が教育委員会から観光スポーツ文化部に移管することで文化財保存活用地域計画がどのような動きになるのか注視していきたい。				

(別紙)

視察先	愛知県 小牧市			
視察日時	令和 6 年 2 月 6 日（火） 9：00～10：30			
視察項目	窓口サービスについて			
対応部署名	小牧市役所福祉部市民窓口課			
自治体概要	人口 (令和5年12月1日)	149,884 人	面 積	62.81 ㎢
	名古屋市の北側に位置し、複数の高速道路が交わることから、陸上交通の要衝となっている。年間の製造品出荷額が 1 兆円を超える 工業都市であり、工場や物流基地の集積地である。都市雇用圏においては名古屋市や刈谷市などと共に名古屋都市圏の中心市に位置づけられている。市の中部には、織田信長が初めて築城し、豊臣秀吉と徳川家康の天下分け目の合戦の 1 つである「小牧・長久手の戦い」の舞台ともなった小牧山がある。日本三大地鶏の 1 つである「名古屋コーチン」は、市東部の池之内の発祥として知られ、現在でも市東部の養鶏場で飼育されている			
視察内容				
福祉部市民窓口課の課長をはじめ、主幹、住民登録係長や証明発行係長から「市民窓口課」の業務全般に対する説明を受け、質疑応答の後、市役所 1 階フロアの市民窓口課の業務を見学、お悔やみコーナーを見学する。				
 受付発券機  1 階待合ロビー  お悔やみコーナー  キッズルーム				
所 感				
第一印象は気持ちの良い市役所と感じた。中央にエスカレーターがあり、驚いた。スマート窓口は令和 3 年度からトップダウン形式で始まった。いちいち書かずに交付を早く受け取れる仕組みとなっており、書くことが苦手な高齢者にとっては助かる。また時間もかからない待たせることがなくなり良いシステムとなっている。窓口業務はプロポーザルで業務委託して 3 年契約としている。エプロンを掛けて業務をしている人が委託業者とわかりやすくなっていた。令和 4 年度からは各支所でもスマート窓口を開始されている。亡くなった手続きもお悔やみコーナーを設け、市民が各課を回るのではなく、職員が来て手続きを取るという形を取っている。長門市は死亡手続きに必要な事項チェックシートを渡し市民が各課に回っていく方式で、市民目線で改善をしていく必要がある。小牧市では、市民に「小牧市は住みよいまち」「今後も小牧市で暮らしたい」と市民意向調査を行っている。「小牧市は住みよいまち」だと思ふ人の割合が平成 24 年度 82.9%平成 30 年度 85.5%令和 90%と上昇。「今後も小牧市で暮らしたい」と思ふ人の割合が平成 24 年度 79.0%平成 30 年度 84.5%令和 88.2%と上昇している。この様に常に市民目線の行政運営を長門市もいていって欲しいと思う。				